



移動スーパー



コミュニティナース



水源地の森



森林保全学習

水源地の村づくり

～都市にはない豊かな暮らしを築くために～



奈良県 川上村

令和元.11 川上村長 栗山 忠昭



奈良県川上村の概要

◆位置・地形

- ・奈良県の南東部に位置
- ・面積 269.26km² (**97** %が山林)
- ・26の集落が点在
- ・吉野川 (紀の川) の最源流に位置

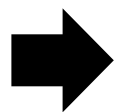
◆歴史

- ・吉野林業発祥の地
- ・南北朝時代、悲哀の歴史舞台に
- ・今年、「村制施行 **130** 周年」を迎える
(11/16【源流の日】に記念式典開催)

◆人口・世帯

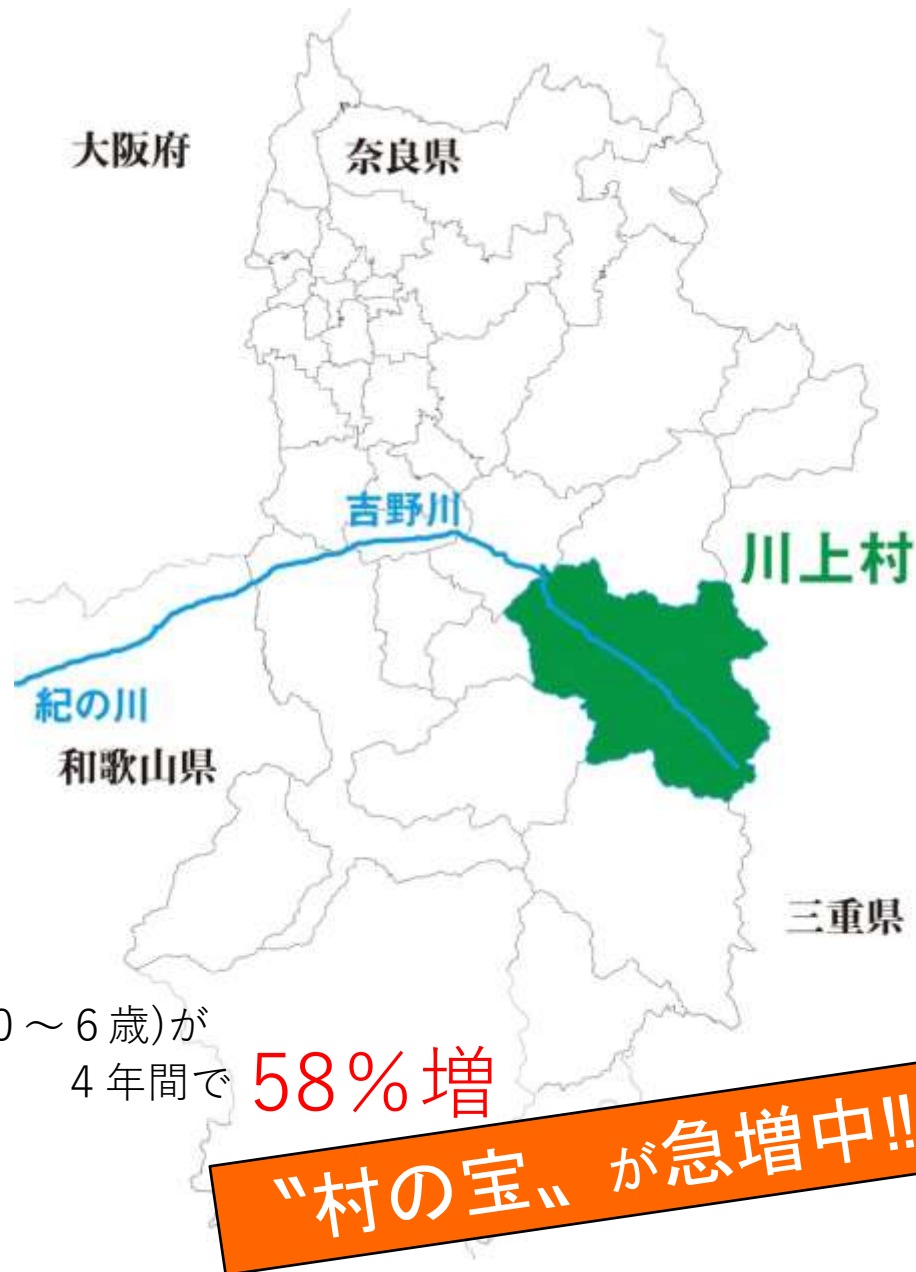
- ・ **1,313** 人・680世帯
- ・高齢化率 **56.2** %

過疎、挑戦中!!



幼児(0~6歳)が
4年間で **58%増**

“村の宝”が急増中!!



水源地の村づくり ～樹と水と人の共生～

- 平成6年に第3次総合計画「吉野川源流物語」を策定。
半世紀を要した大滝ダム事業を契機に「水源地の村づくり～樹と水と人の共生～」を決意。
 - ✓ 平成8年「**川上宣言**」を全国に発信。
「源流を守り、きれいな水を下流に流し続ける」ことを村民とともに覚悟。
 - ✓ その証として、平成11年吉野川（紀の川）の源流に位置する**740ha**（東京ドーム170個）の**原生林**を村が購入。「**水源地の森**」として保全しています。
 - ✓ 平成14年、水源地の想いを発信する情報交流拠点として「森と水の源流館」を開館。
「公益財団法人吉野川紀の川源流物語」を設立し、源流の保全活動を展開中！！
 - ✓ そんな想いが通じたのか、平成26年「**全国豊かな海づくり大会**」にて**天皇皇后両陛下**（当時）が行幸啓されました。



- 森林の国土保全機能・水源の涵養機能が十分でない現状は、
“源流の危機”は“国土の危機”であることを強く意識

平成26年5月18日
都内で発表！



- ✓ 源流を守る仲間や流域の人々との「**つながり**」を深めている
- ✓ 「源流を守ることが」村の価値とし、村民の大きな「**使命と役割**」と認識している
- ✓ 「源流を守り、国土保全を推進する国会議員連盟」の設立準備中！！
- ✓ 森と水の源流館による、ESD授業づくりセミナーや出張源流教室等を実施

環境白書(H30年版)に
「**流域圏の連携**」掲載！



- 「紀の川じるし」で流域の産業を元気に！
 奈良県川上村、**吉野川・紀の川流域14市町村**の連携

- ✓ 吉野川・紀の川の流域をひとつの「商店街」に見立てる
- ✓ 川の流れに支えられた地域の「恵み」をブランド化
- ✓ 平成27年に「林業、農業、漁業キーパーソン」とともに「紀の川じるし」の立ち上げ

グッドライフアワード環境大臣賞
「**グッドライフ特別賞**」授賞！



- ✓ 地域資源の「恵み」を教材とした「**紀の川じるしのESD**」への取組

源流館の取り組みが
「**過疎地域自立活性化優良事例表彰・総務大臣賞**」授賞！





「奈良モデル」の取り組み

● 経緯と目的

荒井知事が提唱。県と市町村が一体となって課題ごとに定期的にサミットなどを開催。市町村にとって大きな励みであり、貴重な情報交換の場となっている。

荒井知事の地域（市町村）の個性を尊重しながら、いわゆる“連携”という仲間づくりをめざしている行政手法に絶賛している。政には理念に“心”があること。

● 奈良モデルとは・・・

「市町村合併に代わる奈良県という地域にふさわしい行政のしくみ」である。

人口減少・少子高齢社会を見据えて「地域の活力の維持・向上や持続可能で効率的な行財政運営をめざして、奈良県からの支援と協働（垂直補完）、市町村間の連携による効率化（水平連携）の仕組み」で、包括的な地域づくりを展開している。

● 主な支援策

- ✓ 財政支援（補助金、貸付金等）と、人的支援（職員派遣、技術吏員等の共同採用）
- ✓ 県有資産の有効活用による支援（県域ファシリティマネジメント）
- ✓ その他の支援（市町村への課題解決策の提案や検討の場づくり等）

主な「奈良モデル」の県・市町村の取り組み

- ・大規模災害や増加する救急搬送の増加に対応
 - ・南和地域における広域医療提供体制の再構築
 - ・道路インフラの長寿命化に向けた支援
 - ・地域性を活かした賑わいのあるまちづくりの推進
 - ・ごみ処理の実態を踏まえた対応
- 奈良県広域消防組合の設立
 - 南奈良総合医療センターの整備
 - 協議会にて橋梁点検とトンネル修繕計画業務
 - 各地域の中心となる拠点の再整備
 - さくら広域環境衛生組合の設立

主な「奈良モデル」の川上村の取り組み

- 奈良県と川上村のまちづくりに関する連携協定：**平成29年2月 包括協定書締結**
 - ✓村内に2つのネットワーク圏を形成した新しい郷（まち）づくり
 - 西部地区**プロジェクト区域 → **にぎわいと仕事の郷（まち）づくり**
 - 東部地区**プロジェクト区域 → **暮らしつつける郷（まち）づくり**
 - ✓**平成30年10月 奈良県と基本協定を締結**し、現在基本計画を策定中



にぎわいと仕事の郷づくり

西部産業・観光拠点周辺地区

- 林業を核とした6次産業化による雇用の創出及び観光拠点の整備・活用による交流人口の増加をめざします。
 - 多様な住まいの確保によるU・Iターン移住者の呼び込みを通じて、地域の資源を活かした産業・観光・移住拠点の創出をめざします。
- ✓製材施設の新設と既存施設の再整備及び連携による一貫供給体制を構築し、仕事を創出
 - ✓吉野林業中興の祖・土倉庄三郎翁顕彰碑を観光資源として活用
 - ✓花木等の植栽による景観改善、ダム湖面利用や関連施設を整備
 - ✓吉野高校旧西河寄宿舍（若竹寮）や旧林業資料館、木匠館等の整備による、単身者や家族のニーズに合わせた移住者用住宅や担い手を育成し受け入れる環境の確保
 - ✓産業や観光を支える道路や橋梁等のインフラの整備

西部地区プロジェクト区域

拠点

東部地区プロジェクト区域

拠点

村全体の活性化

暮らしつつける郷づくり

西部産業・観光拠点周辺地区

- 「もっと便利に」「もっと楽しく」「もっと元気に」をモットーに。暮らしの拠点を活用した「暮らしがつづく集落づくり」をめざします。
- ◆川上村ふれあいセンターを拠点に、安心して健康に住みつつけられる事業を展開
 - ✓かわかみらいふとの連携により、移動スーパーや宅配事業などの買い物支援や見守り、声かけを実施
 - ✓健康教室。福祉や巡回診療などの医療サービスを提供し、地域における防災の拠点として活用
 - ✓地域住民が楽しく集まる住民主体のコミュニティの形成
- ◆災害・緊急医療対応ができるヘリポート等の確保
- ◆空き家の活用、村営住宅や高齢者向け住宅等の整備

都市にはない豊かな暮らしを築くために

- 若者移住（定住）をめざすためにも、まず今を生きる村民の満足度（幸福度）を高めることとしている。

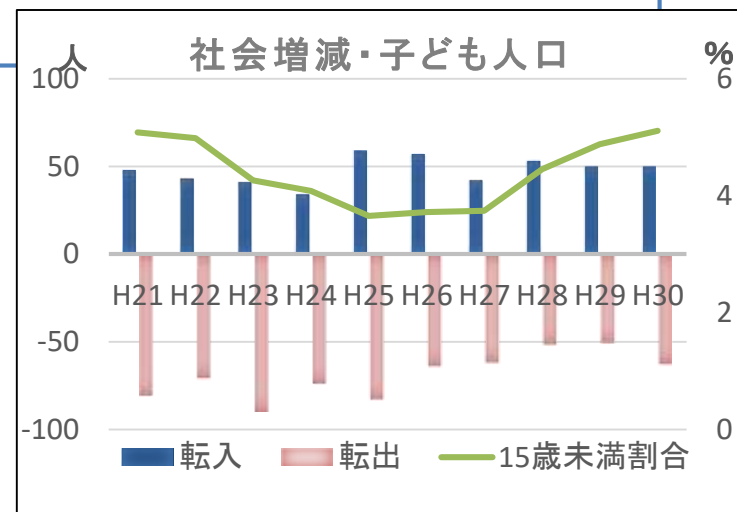
1. 住み心地（居心地）を整えること。
2. 新しい出会い、つながりを求めること。

1. 住み心地（居心地）を整えること

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① 「一般社団法人 かわかみらいふ」 | …生活支援、雇用の場の創出 |
| ② 「一般社団法人 吉野かわかみ社中」 | …6次産業化、雇用の場の創出 |
| ③ 「らくらく元気塾・コミュニティナース」 | …健康で元気な暮らし |
| ④ 「コミュニティバス事業」 | …利便性の確保、交流の場 |
| ⑤ 「おてったいさん制度」 | …協働の意識の醸成 |

2. 新しい出会い、つながりを求めること

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① 「川上ing作戦」 | …若者の定住移住、キッカケづくり |
| ② 「地域おこし協力隊」 | …地域の魅力の掘り起こし |
| ③ 「未来への風景づくり事業」 | …民間企業との協業 |
| ④ 「かわかみ源流ツーリズム」 | …地域資源の活用、雇用の場の創出 |
| ⑤ 「ちびっこ増やし隊、保小中の校舎一元化」 | …子育て世代の交流、教育の充実 |
| ⑥ 「大学との連携」 | …地域社会の発展、人財育成、関係人口 |



(一)社会減少人口数が
10年前と比較して減少

(二)15歳未満人口割合が
ここ数年で少しずつ増加



取り組みの成果！

1. **住**み心地(居心地)を整えること

① 一般社団法人かわかみらいふ(生活支援と雇用の場の創出、小さな拠点の形成)

事業内容

- 産官金労福+村民の「一般社団法人かわかみらいふ」を設立
地元の民間企業と連携し、「移動スーパー事業」・「宅配事業」を行い、買い物利便を確保するとともに、声かけ等を実施し生活不安を解消。
村唯一のガソリンスタンドも継業。新たな**雇用の場の創出**・**地域内経済循環**に取り組む。
- 東部地区の公共施設を「**小さな拠点**」としてリニューアル
「コミュニティカフェ」・「医師による巡回診療を実施」・「体操サークル活動の支援」・
「看護師・歯科衛生士が移動スーパーに同行して健康づくりを支援(コミュニティバス事業)」

26人の村民が活躍！
1,300人の村で
1億8千万円の売り上げ！



地域運営組織による、村民の【**生きがいづくり**】【**一人一人の役割づくり**】が大きな評価と注目をいただいています！



② 一般社団法人吉野かわかみ社中（吉野林業の6次産業化・雇用の場の創出）

事業内容

- 林業関係4団体＋行政による「吉野かわかみ社中」を設立し、吉野林業再生に着手。
 - 「持続可能な川上産吉野材の一貫供給体制と情報拠点の構築」を進める。
いわゆる6次産業化をめざす。
 - 施業プランナーや木造住宅セールスパーソン等、事業実行と結果を出せる人材を雇用。
 - 産地だが、木材生産（川上）、製材・加工・流通（川中）、マーケット（川下）に至るすべての取り組みを展開。
- ✓ 山づくり：森林調査や再造林の実施、新規就業者の育成支援
 - ✓ 製造・加工：村内6次産業化体制の構築、木造にこだわる工務店や建築士、木工事業所、木工作家との連携
 - ✓ 販売促進：見学ツアーの開催、多様なニーズに対応する商品開発・販路開拓

2020年東京オリンピック
関連でも使用予定



森林調査（境界確認）



吉野材伐採体験ツアー



村営住宅(リビングルーム)



吉野杉天然木クロス

吉野杉スリットパネル

③ らくらく元気塾・コミュニティナース（健康で元気な暮らし）

事業内容

「らくらく元気塾」 23地区で実施 180名が参加
 「OB教室」 16地区で実施 130名が参加

■ らくらく元気塾

平成21年度から健康運動指導士・管理栄養士等が各地区の公民館に出向いて、介護予防のための健康づくりを実施。事業終了後もOB教室として自主的に継続中。

■ コミュニティナース

看護師を役場や病院以外(東部地区)に配置。かわかみらいふの「移動スーパー」に帯同。日々の暮らしの身近なところで、声かけや見守りを実施。

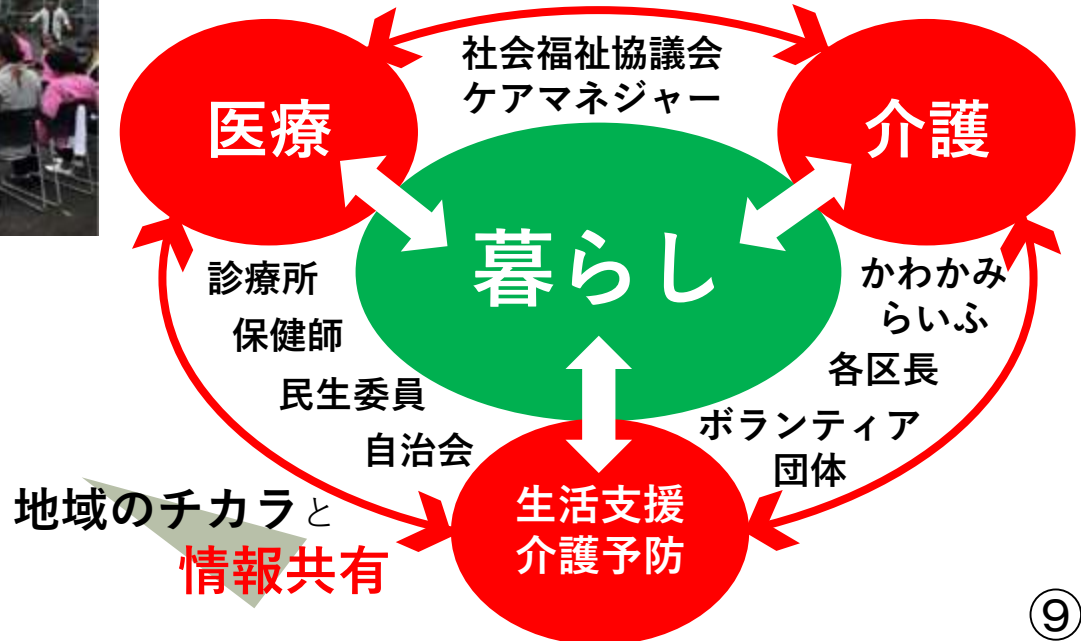


村づくり はまず **健康づくり** から！

健康は食事や運動の他、コミュニケーションや人との出会い、ふれあいが大切。

川上村地域包括ケアシステム

(まとめて構築)



④ コミュニティバス（利便性の確保、交流の場）

事業内容

■ 奈良交通バスの路線廃止（平成27年9月末）に伴い **3つのバス路線 + デマンド送迎** を運営。

◆やまぶきバス（川上村コミュニティバス）

- ・ 路線バスの廃止に伴い、時刻改正や運行区間を延長。
- ・ 平日の朝便を早めたことで通学できる学校が増加。

◆スマイルバス（吉野町コミュニティバス）

- ・ 隣町のコミュバスが川上村へ乗り入れ。相互連携で利用者増。

◆ゆうゆうバス

（2町3村での広域連携コミュニティバス）

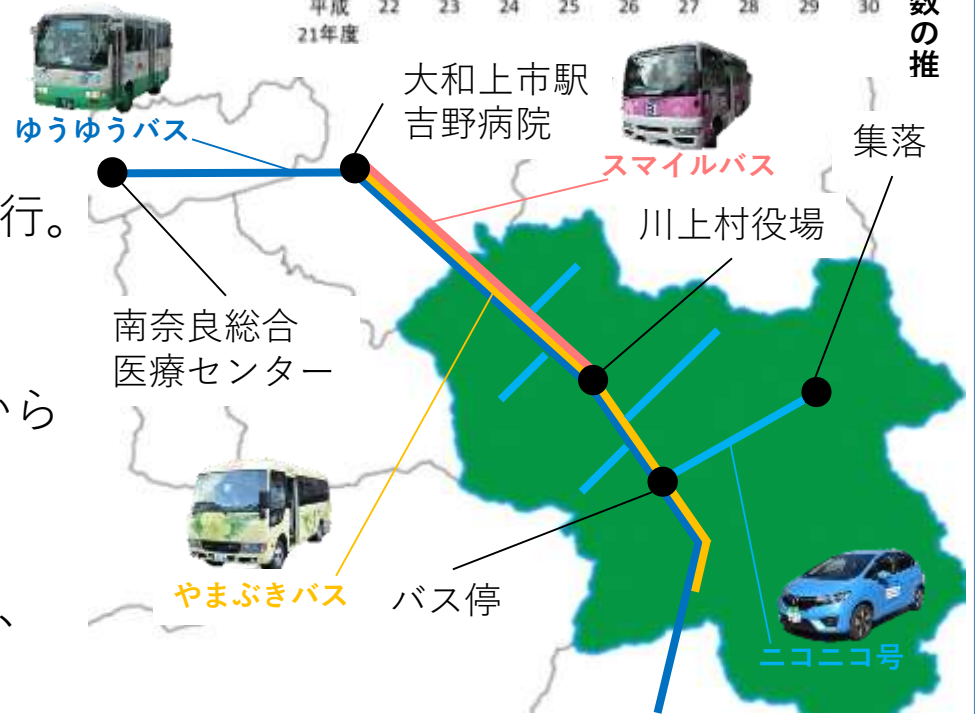
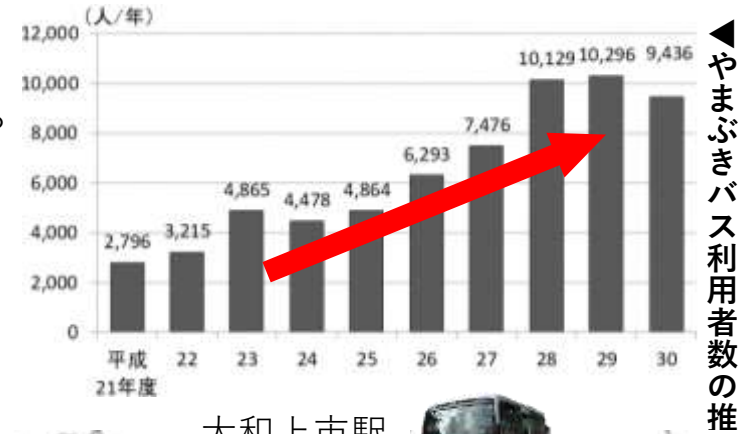
- ・ 下北山村～南奈良総合医療センター間を運行。広域連携で利用者増。

◆ニコニコ号（支線～国道間の送迎）

- ・ バスが乗り入れていない支線（谷筋集落）から「各バス」に接続。予約制で無料。

◆やまぶきタクシー（タクシー利用者助成）

- ・ 村民が村内で村内タクシーを利用した場合、半額を補助。



⑤ おてったいさん制度（協働の意識の醸成・役場職員版の集落支援員）

事業内容

- **行政と住民のパイプ役**として、全26大字（集落）それぞれに2名ずつ、地域に出向く役場職員として「おてったいさん」を配置。
 - ✓ 役場への申請や届け出を、「おてったいさん」に。
 - ✓ 伝統行事や清掃作業のお手伝いを、「おてったいさん」と。
- 「おてったいさん」の効用・効果
 - ✓ 職員の仕事場は村内一円（すべてがフィールド）
 - ✓ **「地域に出向く」「住民に寄り添う」行政**
 - ✓ 地域と人の魅力の掘り起こし
 - ✓ 連携を密にした結果の住民に与える大きな安心感

「おてったい」とは方言でお手伝いのコト

「おてったいさん」とはお手伝いをする人

- 活用できる補助金の案内
- 集落内の危険個所の把握
- 要介護者の把握
- 地域の魅力を発見
広報・パンフレットで紹介 など



行事参加や普段の雑談等の中で...

年間約50件の活動!!



2. **新**しい出会い・つながりを求めること

① 川上ing作戦・婚活イベント（若者の定住移住、キッカケづくり）

2014年から**59人**
(全村民の5%)の
移住実績!

事業内容

- 2013年「住環境整備事業」として暮らし支援施策を若手職員で取り組みをはじめた。
- ✓ 2014年には「川上ing作戦」と名を改めるとともに、「定住」「移住」を重点施策に。
- ✓ 「職」の相談から「住」の紹介まで、暮らしをバックアップ。（移住ツアー・村コンも開催）
- 村での暮らしを丸ごと体験！ふるさとワーキングホリデーを年2回開催。

村での暮らしの支援に取り組んだ結果、若者世代が定着し、

0～6歳人口は、2015年24人が2019年に38人に！

空前の
ベビーラッシュ!!

- 人と仕事を取り戻す1%戦略（持続可能な地域社会総合研究所 藤山浩所長）を実施中！
- ✓ 家計調査・底力調査・ワークショップ・人口分析

若手職員中心に

課題の把握

知見を広げる
多面的に考える

動き、結果を出す



② 地域おこし協力隊（地域の魅力の掘り起こし）

事業内容

- 村内に移住してさまざまな魅力を掘り起こし、
地域資源を魅力的に利活用する意欲のある**若者**を募集。
- ✓ これまでの採用は21名。現在、現役隊員は8名。OB・OGのうち8名が定住。
- ✓ 歴代隊員の前住所地は、東京都、神奈川県、埼玉県、新潟県、岐阜県、愛知県、大阪府、兵庫県、山口県、アメリカ。
- ✓ 村を知り、人と関係を築き、それぞれの起業に向けて展開。
- 毎年、活動報告会を開催（令和元年度は令和2年2月16日に開催）
やまいき市（朝市） 暮らす宿HANARE（農家民宿） 山遊び塾ヨイヨイかわかみ studio Jig Oide
MoonRounds 養魚場 エコツーリズム推進 など

彼らの**“行動力”**は、村民や役場職員に**“大きな刺激”**



③ 未来への風景づくり事業（民間企業との協業）

事業内容

- 大滝ダム事業に伴い集落の集団移転があった地において、かつてこの地にあった人の暮らしのぬくもりを、植栽による景観づくりをとおして再生するプロジェクト。
- ✓ 企業・団体が区画ごとに植樹と管理。
- ✓ ここを拠点に、職員研修や社会貢献活動を実施。
- ✓ **村と企業、企業と企業の交流、享受し合える** 関係性も展開。
 - ・ 毎年秋に「ふれあいまつり」を開催。村・企業・村民の交流の場
 - ・ 大和ハウス工業(株)は、創業者石橋信夫氏の生誕の地である寺尾に“石橋信夫翁の碑(胸像)”を令和2年に設置予定。人財教育の一環で活用。

今年は、11/16(源流の日)
村制施行130周年記念式典と
同時開催

将来のイメージ図



◆協賛企業・団体（R元、11月現在）
大和ハウス工業(株)、近畿日本鉄道(株)、佐藤薬品工業(株)、奈良交通(株)、鹿島建設(株)
市民生活協同組合ならコープ、奈良中央信用金庫、奈良ダイハツ(株)、(株)イムラ封筒
奈良県農業協同組合、奈良トヨタグループ、ダイドードリンコ(株)、損保ジャパン日本興亜
(株)タカトリ、不二熱学グループ、森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟（16社）

④ かわかみ源流ツーリズム (地域資源の活用、雇用の場の創出)

事業内容

源流ツーリズム =
エコ(自然資源)ツーリズム + インフラ(社会資源)ツーリズム

- 川上村の豊かな自然、歴史、文化を「**保全、継承**」しながら、**魅力的な地域資源**とのふれあいや**学び**の機会を提供。
- 村民が主役！ありとあらゆる資源を「川上宣言」の精神に基づき様々な体験プログラムとして提供し、村の元気(経済循環)を創出

「吉野川紀の川源流ツーリズム推進全体構想」が環境大臣他3省庁から令和元年11月認証予定!!



⑤ 保育園・義務教育学校の設立【令和5年9月開校予定】(子育て世代の交流、教育の充実)

事業内容

- 「ふるさとに学び、力強く自らの未来を切り拓く子どもの育成」
「どんな時代（社会）にも対応できる生きる力を育む学校」
 - ✓ 川上村義務教育プランを基に12年間を見通した教育
 - ✓ 確かな学力や豊かな人間性、たくましい心身、郷土愛を育む教育を推進
 - ✓ 川上村に住む子育て世代が、安心して子育てできる環境をつくる。



保護者説明会を十分に
に行き、しっかりと
理解を得ています！

現在、校舎基本設計作成中！



“15の春は正夢に”

- ・ 12年間の責任ある見守り
- ・ 園長や指導主事の配置

保小中
教職員の
連携を強化

更なる連携の強化

- ・ 住民交流の場
- ・ 地域力や地域の知恵を
得る場

学校・家庭
・ 地域の連携
を強化



⑥ 大学との連携（地域社会の発展、人財育成、関係人口）

事業内容

- 相互の資源を持ち合い、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある地域社会の形成と発展に寄与するとともに、**関係人口の創出**をめざす。

- ✓ **2010年 大阪工業大学と連携協定締結**

東部暮らしの拠点周辺地区まちづくり基本計画にかかる
避難住宅の提案・ライブカメラプロジェクト・
PRコンテンツ・新入生オリエンテーション等

- ✓ **2017年 奈良女子大学と連携協定締結**

- ✓ 京都大学、畿央大学、関西大学との事業連携

- **木匠塾（1998年始動）**

建築を学ぶ学生が、木－山－木造について広い視野
に立ち実地に学ぶ機会良質な吉野杉の特性を知り、
多用途への利活用を検討

～日本建築学会教育賞(教育貢献) を受賞！～

間伐材の活用と創造を通して

木や自然を学ぶ「木匠塾」

吉野林業発祥の地である川上村を拠点に、間伐材を使った制作物など実際に木に触れる創作体験を通じて、日本の林業や山村での生活、木という素材が持つ可能性について学ぶ教育プログラムを展開。大阪工業大学、大阪芸術大学、近畿大学、滋賀県立大学、奈良女子大学の5大学が参加し、21年間で参加した学生はのべ1,400人を超える。





ご清聴ありがとうございました！

